

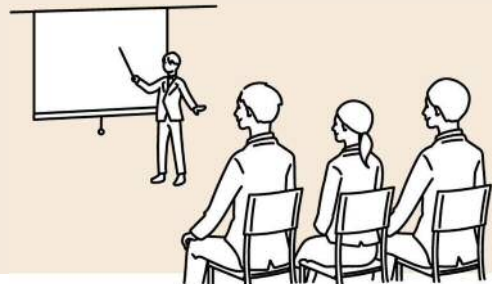
第2回 一宮西部地区 かわまちづくり協議会

- ・ 日時：2024年6月6日（木）15:00～
- ・ 場所：一宮市役所 本庁舎 901会議室

1

議事次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 前回のふりかえり
 - (2) 現況と課題
 - (3) かわまちづくりの基本理念・基本方針
 - (4) 取組内容
 - (5) 目標の設定
 - (6) 今後の予定
3. 意見交換
4. その他・まとめ
5. 閉会



2

(1) 前回のふりかえり

- 目標の設定、協議会の位置づけ
 - ・ **「地域の活性化」**は、皆さん、市民、事業者にとってどんな「ゴール」になるのか？
 - ・ **指標の共通認識**を持ちたい
 - ・ 「人」が大事。⇒この協議会が**活動している人が集まり、いろんな意見を出せる場**になるとよい
 - ・ **「地域の皆さんに楽しいと思ってもらう」**ことが必須
何を指すか **「理念」が大事**
- 利活用について
 - ・ **木曽川の夕日**が大好き ⇒きれいに見えると思う人がどれだけいて、**「魅力をどう発信するか」が重要**
 - ・ 陸と川からでは景色が異なる。**水辺からの公園利用は魅力**
 - ・ 音楽フェス開催にあたっての規制
 - ・ **県外からの魅力**を考えると **「サイクリングロード」がキーワード**
 - ・ レンタルサイクル、ランニングショップ、アウトドアショップ⇒**イベントを定期的に**



3

(1) 前回のふりかえり

- 利活用について
 - ・ 特定の貴重種より、**広く生態系を学ぶ環境学習の方がよい**（野鳥観察、オイカワ、タモロコ、外来種対策等）
 - ・ 交通の便がもう少し良くなると便利
- 思い出
 - ・ **「中野の渡し」を残してほしい。地元の歴史**の掘り起しと連携
 - ・ **自転車**を船に乗せて**対岸へ行くのは楽しい思い出**
 - ・ 富田山公園へいくと**「ペットと楽しく過ごせる」**と思ってもらえるのでは



4

(2) 現況と課題

前回協議会および既存の計画等から、対象地域の課題を整理しました

木曽川の景観

- ・ 市街地と河川は堤防により分断され、木曽川の風景を見ることができる場所は堤防、橋梁など一部である。
- ・ 堤防上の自転車道は未整備区間があり、河川沿いを上流から下流まで周遊することができない。



水に関する自然・歴史・文化

- ・ 中野の渡しは、渡船として終了する予定であるが、存続の要望が出されている。遊覧等新たな役割をあたえて存続するには、船着き場の場所を変更する必要も考えられる。新たな船着き場を設置する場合、流下能力の阻害など生じないよう治水安全性と利用の利便性の両立をはかる必要がある。
- ・ かつては木曽川の川あそびは地域の共通する楽しみだったが、安全な場所が減り、安心して水辺を楽しむ機会が減少している。
- ・ ウォータースポーツ利用者の増加等により事故などが多発したため、河川管理者により水面利用のルールが定められている。一宮西部地区の下流は動力船の利用区域として指定され、SUPやカヌーなどの利用はできない。

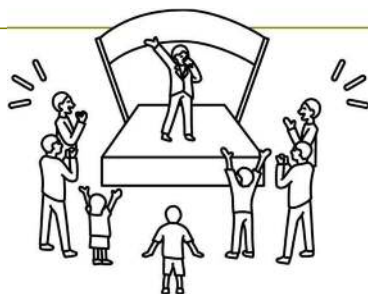
5

(2) 現況と課題

前回協議会および既存の計画等から、対象地域の課題を整理しました

水辺のイベント・レクリエーション

- ・ 市民の手で河川敷でのお祭りやイベントが計画されているが、設備の不足、許認可手続きが煩雑である、治水安全を考慮するため機材設置期間が限定されるなどの問題が生じている。
- ・ 対象地区には公共交通が少なく自家用車での来場が主となる。しかし駐車場スペースは十分でなく、イベント時は駐車場が不足する。



木曽川に関する地域の取組

- ・ かわまちづくりには地域での活動主体が重要である。しかし、現時点では人材、組織の見通しが十分ではない。
- ・ ミズベリング等様々な活動が市民、行政により行われているが、地域には十分伝わっている状況ではない。

6

(3) かわまちづくりの基本理念・基本方針

基本理念（案）

KISOGAWA FUN&FAN

- ・ **FUN**：木曽川の雄大な景色、自然、歴史にみて、ふれて、遊んで、楽しみ（FUN）が増える。
- ・ **FAN**：木曽川を楽しむ人々が集まり、にぎわいの場が広がり、一宮市のファン（FAN）が増える。

一宮市は、木曽川とともに発展してきた地域であり、木曽川がもたらしてくる多くの恵みを楽しんできた。木曽川と地域が日常的につながる水辺を通して、**木曽川を楽しむ人が増え、一宮市の魅力と活力が増えることを目指して、かわまちづくりに取り組む。**



(3) かわまちづくりの基本理念・基本方針

基本理念	基本方針	取組内容	事業区分						
KISOGAWA FUN&FAN	木曽川の景色をたのしむ <ul style="list-style-type: none"> ・木曽川には美しい自然と景色があり、沿川には公園、展望スポットのほか、見る、遊ぶ、食べる場所がたくさんある。 ・楽しいスポットを、歩いたり自転車に乗ったりしながら、ぐるっとめぐる空間をつくることで、一宮市民も周辺の市民も木曽川を感じ、親しむことができる機会を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 1.サイクリングロードの全線整備 2.水辺の景観を楽しめる遊歩道の整備 3.サイクリングロードの利活用促進 	<table border="1"> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> </table>	ハード整備	ソフト施策	ハード整備	ソフト施策	ハード整備	ソフト施策
	ハード整備	ソフト施策							
	ハード整備	ソフト施策							
	ハード整備	ソフト施策							
	水に関する自然・歴史・文化をたのしむ <ul style="list-style-type: none"> ・中野の渡しに代表される木曽川の水辺文化を生きし、安全な河川利用や、治水安全度に留意しながら、水辺に親しむ場をつくる。 ・水辺文化や自然環境を継承し保全できるよう、地域の子どもたちはじめ多様な世代が楽しみながら文化、自然、安全な水辺利用を学び体験する機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4.親水護岸の整備 5.水に関する文化をはぐくむ活動の推進 	<table border="1"> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> </table>	ハード整備	ソフト施策	ハード整備	ソフト施策		
	ハード整備	ソフト施策							
	ハード整備	ソフト施策							
	水辺のイベントやレクリエーションをたのしむ <ul style="list-style-type: none"> ・河畔林や水辺、遠方の山々が調和した豊かな自然環境と景色のなかで人々が憩い、様々な活動を行うことができる開かれた水辺空間を整備する。 ・多様な人々や組織・団体が、水辺で活動しやすくなるよう仕組みや手続きをととのえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6.水辺空間をパブリックスペースとして整備・活用 7.パブリックスペースを活用した民間活動のサポート 	<table border="1"> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> </table>	ハード整備	ソフト施策	ハード整備	ソフト施策		
	ハード整備	ソフト施策							
ハード整備	ソフト施策								
輪がひろがることをたのしむ <ul style="list-style-type: none"> ・できる取組から段階的に、横のつながりを深めながらすすめていくことで、かわまちづくりに楽しんで取組む仲間をすこずつ増やす。 ・楽しみながら、市民からまずFANを増やし、緩やかな広がりをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 8.各種団体・人がつながる仕組みをつくる 9.輪を広げるしかけをつくる 	<table border="1"> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> <tr> <td>ハード整備</td> <td>ソフト施策</td> </tr> </table>	ハード整備	ソフト施策	ハード整備	ソフト施策			
ハード整備	ソフト施策								
ハード整備	ソフト施策								

(3) かわまちづくりの基本理念・基本方針

基本方針（案）

木曽川の景色をたのしむ

- ・木曽川には美しい自然と景色があり、沿川には公園、展望スポットのほか、**見る、遊ぶ、食べる場所がたくさん**ある。
- ・楽しいスポットを、歩いたり自転車に乗ったりしながら、**ぐるっとめぐる空間をつくる**ことで、一宮市民も周辺の市民も**木曽川を感じ、親しむことができる機会を増やす**。



水に関する自然・歴史・文化をたのしむ

- ・中野の渡しに代表される木曽川の水辺文化を生かし、安全な河川利用や、治水安全度に留意しながら、**水辺に親しむ場をつくる**。
- ・水辺文化や自然環境を継承し保全できるように、地域の子どもたちはじめ多様な世代が楽しみながら**文化、自然、安全な水辺利用を学び体験する機会をつくる**。



9

(3) かわまちづくりの基本理念・基本方針

基本方針（案）

水辺のイベントやレクリエーションをたのしむ

- ・河畔林や水辺、遠方の山々が調和した豊かな自然環境と景色のなかで**人々が憩い、様々な活動を行うことができる開かれた水辺空間を整備**する。
- ・多様な人々や組織・団体が、**水辺で活動しやすくなる**よう仕組みや手続きをととのえる。



輪がひろがることをたのしむ

- ・できる取組から段階的に、**横のつながりを深めながらすすめていく**ことで、かわまちづくりに楽しんで取組む仲間をすこしずつ増やす。
- ・楽しみながら、市民からまず**FANを増やし、緩やかな広がりをつくる**。



10

(3) かわまちづくりの基本理念・基本方針

かわまちづくり事業の対象地域



11

(4) 取組内容

木曾川の景色をたのしむ

1. サイクリングロードの全線整備

- ・一宮市自転車活用推進計画に基づき**サイクリングロードを全線で整備**し、サイクリストも地域住民も安全に**木曾川の景色を楽しめる**ようにする。
- ・サイクリングロードは**河川管理用通路を兼ねており、災害時は緊急輸送路**として地域のために活用する。

2. 水辺の景観を楽しめる遊歩道の整備

- ・水辺拠点において、市街地、堤防、河川敷をつなぐ**坂路と、河川敷の遊歩道を整備**し、**水辺の景観をだれもが歩きながら楽しめる**ようにする。



木曾川の眺め

3. サイクリングロードの利活用促進

- ・自転車、ウォーキング、ランなどのイベント開催、レンタルサイクルなど、**地域企業や団体、協議団体等と連携したサイクリングロードの利活用を促進**する取組を開催する仕組みをつくり、木曾川の景色に親しむ機会をつくる。
- ・木曾川沿川の関係機関や自転車関連団体等と連携した**サイクリング情報の発信**などを行い、訪れるきっかけを増やす。



サイクリングイベント『自転車×カフェ』
出典：ミスベリング138Facebook

12

(4) 取組内容

水に関する自然・歴史・文化をたのしむ

4. 親水護岸の整備

- ・水辺拠点に、安全に木曽川と触れ合える**親水護岸を整備**する。
- ・**護岸の形状は流下能力を阻害しないもの**とし、利用の際の安全に留意する。
- ・親水護岸の一部は、**舟を付けることを想定**した形状とする。



中野の渡し

5. 水に関する文化をはぐくむ活動の推進

- ・地元小学校での**舟運体験学習を継続・推進**するとともに、水辺拠点でのイベントなどを、**舟で水面からも楽しめる**ように体制を整える。
- ・木曽川の多様な自然環境を、子どもたちはじめ**多様な世代が学ぶ機会を増やし**、木曽川の自然への理解・愛着を深め、**未来の生息環境の保全**につなげる。
- ・多様な人々が水辺で安全に活動できるように、利用者や指導者の**安全講習や啓発活動を推進**する。



木曽川ミズへの勇者たち
出典：ミズベリング138Facebook

13

(4) 取組内容

水辺のイベントやレクリエーションをたのしむ

6. 水辺空間をパブリックスペースとして整備・活用

- ・水辺拠点のグラウンドはパブリックスペースとし、**グラウンド・駐車場を兼ねた多目的広場として整備**する。
- ・多目的広場は年1回程度冠水することを前提に、**治水安全性、維持管理等を考慮した整備**を行う。



信濃川やすらぎ堤の高水敷
(2019年かわまち大賞受賞地区)
出典：全国まちなか広場研究会

7. パブリックスペースを活用した民間活動のサポート

- ・水辺拠点の民間活動の許認可等について、**市がワンストップでサポート**し、活動しやすい仕組みをつくる。

例：関係機関への許認可申請のサポート
都市・地域再生等利用区域の指定
河川敷の占用申請・許可



大垣市かわまちテラス（岐阜県大垣市）
出典：かわまち大賞2023

※イベント開催時は、**公共交通の臨時便を運用**する。

14

(4) 取組内容

輪がひろがることをたのしむ

8. 各種団体・人がつながる仕組みをつくる

- ・地元住民、企業、NPO、行政、公共交通機関からなる**利活用推進協議会をつくり**、かわまちづくり事業を継続して推進する。
- ・団体、市民が緩やかにつながる**ネットワークをつくり**、情報交換をするとともに、定期的に楽しく交流する。

9. 輪を広げるしかけをつくる

- ・市民が楽しく参加できる**仕組み**を検討する。
例：花火大会・フェスのクラウドファンディングなど
- ・かわまちづくりに関係する開催者、企業、参加者が**SNSでつながる仕組みをつくる**。
例：共通のタグ作成、投稿大賞他



15

(5) 目標の設定

- ・かわまちづくりの取組により、木曽川と水辺拠点での楽しみ（FUN）が増え、木曽川と一宮市のファン（FAN）が増えることを目標とする。
- ・かわまちづくりの目標を評価する数値指標は、第7期一宮市総合計画後期基本計画を参照に設定する。

1. 対象地域への来訪者数：FUN

- ・対象地域の訪問者数を、**楽しみ（FUN）が増えること**の評価指標とする。
- ・第7期一宮市総合計画後期基本計画の「水辺空間を活用したイベントの参加者数及び施設の利用者数」の目標から、現利用者の**約1.2倍**とする。

- 2024年時点の推定利用者数 **約22,000/年**
- かわまちづくり事業完了翌年の推定利用者数 **約26,000人/年**

2. 一宮市民からの認知度：FAN

- ・かわまちづくりの認知度を、**ファン（FAN）が増えること**の評価指標とする。
- ・目標数値は、第7期一宮市総合計画後期基本計画の体感指標「水と緑に親しめる場やイベントがあると思う人（38%）」を参照に設定する。
- ・認知度は、かわまちづくり事業完了翌年の**市政アンケート**で把握する。

- 2024年時点の認知度 **0%**
- かわまちづくり事業完了翌年の認知度 **20%**

16

(5) 目標の設定

訪問者数の目標の設定方法は、以下の通りです。

■対象地域における現在の訪問者数

場所	内容	人数
北方～ 県境までの 水辺（下記 除く）	西中野渡船（中 野の渡し）	30
	環境学習	60
	各種イベント （水辺で乾杯、 雀のお宿野外音 楽祭）	700
富田山公園 前河川敷	びさい夏まつり	20,000
	その他イベント	2,000

合計 22,790人
≒ **22,000人**

※訪問者数は市が把握可能で
毎年開催されている催しより算定

■将来的に増加を見込む目標の訪問者数

場所	内容	人数
サイクリン グロード	サイクリング関連 イベント	1,300
	ウォーキング・ ランイベント	900
富田山 多目的広場	環境学習	180
	安全学習	250
	舟の体験	200
	野外フェス 各種イベント	900
	スケートパーク イベント	300

合計 4,030人

目標：22,000×0.2=4,400人≒**4,000人**
合計：22,000人+4,000人= **26,000人**

17

(6) 今後の予定

年 月	協議会等	内 容
2024年 5月～6月	第2回かわまちづくり 協議会	かわまちづくりの基本理念、方 針、内容について意見交換
2024年 7月～8月	第3回かわまちづくり 協議会	かわまちづくりの整備計画、利 用計画、仕組み、体制等につい ての意見交換
2024年 8月～9月	市民アンケート 社会実験	
2024年 10月	第4回かわまちづくり 協議会	社会実験・アンケートの報告 かわまちづくり計画（素案）に ついての意見交換
2024年 11月～翌年5月	かわまちづくり申請・ 登録準備	河川管理者等関係機関と協議
2025年 6月～	かわまちづくり申請・ 登録	

水辺拠点の整備・利用のイメージ

